新教材を活用した指導事例（We Can! 1 Unit 4「What time do you get up?」の指導）
「外国語教育強化地域拠点事業」～京都教育大学附属桃山小学校　第5学年～

単元の目標

・一日の生活や時刻についてたずねたり、答えたりする表現がわかる。
・頻度を表す表現を伴った一日の生活について、指導者同士のやり取りやまとまりのある話をもとにその概要を理解することができる。また、自分の休日の予定について、平日と比較しながら相手に順序だてて伝えることができる。
・休日の予定について活動やその時刻について計画し、日課と比較しながら発表しようとする。

指導の実際

使用教材・教具：自作ワークシート（WORD LIST）・タブレットPC
指導体制：英語専科（JTE）・ALT・学級担任

第1～2時

〇時刻や一日の生活の表し方を知る。
・1～60の数字の言い方や時刻を表す表現を知る。
・日常の生活を伝える表現を知る。

第3～4時

〇頻度を表す表現を知り、日課をたずねたり、答えたりする。
・まとまりのある話を聞き、その概要をつかむ。
・友だちにインタビューをしながら生活の違いを比較する。

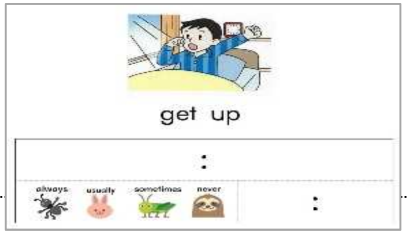
第5～7時

〇パフォーマンス課題を知り、自分の休日の予定を考える。
・指導者からまとまりのある話を聞き、発表の見通しを立てる。
・発表の資料作りをする。
・発表の練習をする。

第8時

〇休日の予定を伝える発表会をする。
・グループに分かれて発表会をする。
・お互いの発表を、評価シートを使って評価する。

頻度を表す表現や、一日の生活を表す表現に慣れ親しむため、ALTの話を聞いたり、インタビュー活動やインフォメーションギャップのある言語活動に取り組んだ。



タブレットPCに時刻や頻度を書き込めるスライドを用意し、「外国の友だちと過ごす休日について、平日と比較して発表する」という課題に取り組んだ。

タブレットPCで作成した自分の休日を紹介するオリジナルスライドを電子黒板に写しながら発表した。

指導上の工夫・教材活用の工夫

・Small Talkの中で頻度を使ったやりとりを行い、頻度についての概要を理解できるようにした。
・タブレットPCを使うことでパフォーマンス課題の資料作りの簡易化を図った（練習時間等の確保）

成　果

・扱う語彙や表現が多い中で、リスニングややり取りに関するゲームを多く取り入れたことにより、児童が時刻・頻度・生活の表現の3つを無理なく理解、表現できるようになった。
・タブレットPCを使うことで準備時間が短くなり、パフォーマンス課題の発表の練習に時間をとることができた。

今後の課題

・語順への意識に差があり、頻度の表現を入れる場所の間違いを修正しきれない児童がいた。
・リスニングに対するワークシートの扱いが難しく、混乱が生じた。聞いたことをまずメモにとり、それからワークシートに取り組むなどの工夫が必要だった。
・「読む」「書く」活動がなかなか入れられなかった。
・数字の積み上げが不足していた。

新教材を活用した指導事例（５年生　Unit 5「She can run fast.　He can jump high.」の指導）

「外国語教育強化地域拠点事業」～福岡県那珂川町立安徳南小学校　第5学年～

単元の目標

○自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり話したりすることができる。（知識及び技能）
○自分や第三者について、できることやできないことを考えを含めて伝え合うことができる。（思考力、判断力、表現力等）
○他者に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）

指導の実際

第1～2時

①【目標】動作を表す語や「できる」「できない」という表現がわかる。
○単元ゴール（先生や自分のできること、できないことの紹介）の設定
○ I can～. I can’t ～. を用いて、できること、できないことを伝え合う。
②【目標】できることやできないことについて聞いて分かり、尋ねたり答えたりすることができる。
○できることとできないことを予想して尋ねたり答えたりする。

Small Talk：好きなスポーツや趣味

第3～4時

③【目標】できることやできないことに関する短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ることができる。
○ペアでできることとできないことを予想して尋ね合う。
④【目標】できることやできないことに関する話を聞いて、具体的な情報を聞き取るとともに、尋ねたり答えたりできる。
○先生ができることやできないことを尋ねたり答えたりする対話を聞いて、音声に続けて練習する。
○友達にあることについてできるかどうかを尋ね、できる場合はイラストに名前を書いてもらう。

Small Talk：好きな食べ物

第5～6時

⑤【目標】第三者のできることやできないことの言い方がわかる。
○Who is he/she? He / She を使って紹介されるキャラクターについて聞き、それが誰かを当てる。
○例を参考にして先生の名前を書く。
⑥【目標】第三者のできることやできないことを話すとともに、例を参考に He や She を書き写すことができる。
○先生についての Who is he? Who is she? クイズを行う。
○例を参考に紹介する先生のできることやできないことを書く。

Small Talk：有名人

第7～8時

⑦【目標】聞き手を意識するなど他者に配慮しながら、第三者のできることやできないことを、自分の考えも含めて紹介しようとするとともに、目的意識をもって例を参考に書くことができる。
○例を参考に自分のできることやできないことを書く。　○先生や自分のことを紹介する練習をする。
⑧【目標】聞き手に伝わっているかを意識するなど、他者に配慮しながら、ある人物についてできることやできないことを自分の考えも含めて紹介しようとする。
○先生や自分のことを紹介する。

Small Talk：尊敬する人

指導上の工夫・教材活用の工夫

○ゴールの活動に向けて、やり取りの内容を「自分」→「友達」→「第三者」→「キャラクター」→「先生」→「先生と自分」と段階的に設定した。
○Small Talkについては、既習表現をくり返し使用するだけでなく、本時で身に付けさせたい表現を意図的に用い、単元のゴールに向けて子どもの意識をつなげられるようにした。

【第5・6時】
Who is he? Who is she? クイズ
○先生への事前のインタビューを基にクイズを作成し、出題し合った。
○He/She の使い分けに気付くことができるように、答えは男女を含んだ三者択一とした。
○クイズ出題用のフリップ作成や次時用の「先生紹介カード」作成の活動を設定し、必然性のある「書く」活動を仕組んだ。

成　果

○ 先生にインタビューを行い、意外な一面をクイズとして作成することで、コミュニケーションの必然性ができ、子どもの興味・関心を高めることができた。
○単元の前半に「聞く」「話す」を中心とした活動を設定し、後半で段階的に「書く」活動を設定することで、児童が「書く」ことに慣れ親しむことができた。

今後の課題

○自分のことも含めて紹介するという単元のゴールに向けて、やりとりの中で感想を述べるなど、常に自分との関わりを意識した活動の設定が必要である。
○「書く」ことについては、単元の中で系統性をもって指導を行ったが、個に応じた支援の在り方についてさらに研究を深めていく必要がある。

新教材を活用した指導事例（ Unit 9「Who is your hero? あこがれの人」の指導）
「外国語教育強化地域拠点事業」～鹿児島県鹿屋市立鹿屋小学校　第5学年～

単元の目標

○　人の説明や得意なことの紹介に必要な表現について分かる。
○　人の説明や得意なことの紹介についてのまとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞きとって内容について質問したり、英語で紹介したりする。
　　音声で十分慣れ親しんだ語句や基本的な表現で書かれた英文を読んで意味が分かり、例を参考に語と語の区切りに気をつけながら書き写す。
○　聞き手に配慮しながら、身近な人やあこがれの人について積極的に話したり、聞いたりしようとする。

指導の実際

指導者：学級担任・英語教育支援員　　その他の使用教材（Hi, friends！Plus、自作絵カード、My　Book）

第1～2時

○　Small　Talk（身近な人の紹介）
○　人の説明や得意なことの紹介に必要な言葉を用いたｷｰﾜｰﾄﾞｹﾞｰﾑ
○　Let’s　Listen！「この人の得意なものは？」

第3～4時

○　教師のモデルスキット（身近な人の紹介）
○　英語による友達へのインタビューを通した友達紹介の準備
○　あこがれの人についての絵や写真を用いて紹介する内容の整理

第5～6時

○　Small　Talk（あこがれの人の紹介）
○　教師のモデルスキット（身近な人やあこがれの人の紹介）
○　友達や先生当てクイズなど、紹介に使う表現を用いたゲーム
○　あこがれの人についての絵や写真を用いて紹介する練習

第7～8時

○　教師のモデルスキット（あこがれの人の紹介）
○　あこがれの人についての絵や写真を用いての発表会を実施
○　紹介した内容をモデルを参考に書き写すなどして、My Bookを作成

身近な人の紹介

・　教師のモデルスキットを通して、場面や状況、
用いる表現等を把握させる。
・　写真や絵カードを用いて、前時までの学習を想起させながら、身近な人の紹介をいろいろな友達と行わせる。
・　友達との対話では、褒め言葉や感想、お礼などの反応や笑顔で楽しく対話することを大切にさせる。

あこがれの人の紹介

・　My　Bookを用いて、相手の反応や理解を確認しながら、あこがれの人について紹介できるように練習させる。
・　発表の際も絵や写真を見せながら話すなど、 伝わりやすいよう工夫させながら発表させる。

紹介した内容を書く活動

・　授業の終末に、学習した表現を基に、児童が自分のことについて書けるように、ワークシートを工夫する。

指導上の工夫・教材活用の工夫

○　教師のモデルスキットによって本時の言語活動の場面や状況を把握させ、ゲーム等の活動を通して基本表現や語彙について、学ばせる。
○　児童が表現する際に、写真や絵カードが手がかりになるよう工夫する。
○　ワークシートや完成した作品は、ポートフォリオ形式で蓄積する My Bookに綴らせ、児童が自己表現の場面で自由に振り返り、活用しながら自分の考えや意見等を表現できるようにさせる。
○　Small　Talkを通して、友達や教師との英語によるやり取りの中で、児童に自己表現を行わせる。

成　果

○　８割以上の児童が、自分の考えや意見を英語で伝えることができると感じている。
○　互いを認め合いながらコミュニケーションを図る姿が多く見られるようになった。

今後の課題

○　My　Book等を活用して話す内容が増えたことに、十分に対応できていない児童が見られる。
○　文字に対する苦手意識をもつ児童への個別指導の充実が必要である。

新教材を活用した指導事例（5年生　Lesson6「This is my hero. あこがれの人はだれ？」の指導）
「外国語教育強化地域拠点事業」　～京都府南丹市立胡麻郷小学校　第5学年～

単元の目標

・得意なことについて、聞いたり言ったりすることができる。また、簡単な語句や表現を書き写すことができる。（知識・技能）
・あこがれたり尊敬したりする人について、自分の考えや気持ちを含めて伝え合う。（思考・判断・表現）
・他者に配慮しながら、自分があこがれたり尊敬したりする人について、自分の意見を含めて紹介し合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）

本時の目標

単元のゴールを知り、人物紹介に使えそうな表現を聞いたり言ったりすることができる。（知識・技能）

指導の実際

本単元は、文部科学省「第5学年 外国語 年間指導計画例〔案・暫定版〕」にあるUnit 9「Who is your hero? あこがれの人」を活用して構成した単元である。本時は全7時間の1時間目であり、この時間の中で私たちは児童が「単元のゴールを理解し、単元を貫く見通しと意欲をもつ」「日本語で考えた『使いたい表現』について、既習事項を活用しながら英語に変換していく」ことができるようにすることをねらった。なお、この単元の学習は学級担任がT1として授業を主導し、英語専科教員がT2としてサポートしながら指導した。

「感動」のある授業　～①感動する ②動いて感じる ③感じて動く～

本時の感動場面
指導者が行うスピーチの大体が聴き取れた喜びを味わう　…①
言い換えや既習事項の活用に気付き（感じ）伝え合う（動く）…③

授業展開

Greeting

Demonstration

T1がタイムマシーンに乗り、７h後の英語の時間に行く。そこでの児童のスピーチ（自分のヒーロー自慢）をする。

T2は新出表現をたくさん取り入れ、児童にとって上質なインプットができ、本時のめあてにつながるスピーチをする。

Today's goal

ヒーロー自まんに使える表現を言ったり聞いたりしよう。

Activity①

自慢チェックタイム
国語科の学習において、ワークシートに書いていた自分のヒーローの「自慢ポイント」を確かめたり付け足したりさせる。

Share

［Shareの視点］
①自慢ポイント交流
②英語への変換
③新出表現の確認

思いや言葉を共有することで、意欲を高めさせる。また、既習事項を活用しながら日本語を英語に変換したり、導入のスピーチから新出表現の意味を推測したりし、児童の力で本単元に必要な表現を確認させる。

まず日本語で考えた表現を模造紙に整理し、それを児童とともに英語に変換していく。

Activity②

Chant等を通して表現のインプットを進めさせ

Who am I?（3ヒントクイズ）
道徳「良いところ見つけ」で渡し合った手紙をもとにし、本時に学んだ表現を使いながら出題する。

Activity③

アドリブ褒め合いゲーム
ランダムに当てられた児童を学級の全員で即興的に褒めさせることで本時の表現を使う場面とさせる。

Summary

授業における重点POINT

①導入において、児童の中で新出表現に対する意味の推測や主体的な学びの道筋づくりが生まれるようにDemonstrationを行う。また、ここで生まれた児童の思いや気付きをToday's goalに反映させることで、児童が主体的に創る「学級の本時のめあて」にさせる。
②ActivityとActivityの間にShareの時間を確保し、前半のActivityから生まれた思いや気付き、学びを共有させる。対話的なこの場面での高まりを後半のActivityに活用させることでさらに深い学びへ児童を誘えるようにする。

指導上の工夫・教材活用の工夫

○T1、T2のそれぞれが導入において内容の違う2つのDemonstrationを行い、一方で単元末への見通し、もう一方で本時の学習への気付きや意欲がもてるようにした。
○児童の思いに即した学習となるように、国語科と関連させ、自分の率直な気持ちが表しやすい日本語で自慢したい人物と内容を考えさせた。（マインドマップ形式での整理）
○児童と言語材料との出会いが指導者側からの「教え込み」とならないように配慮し、言い換えの工夫や既習事項の活用により、表現を自然にインプットできる場面を設定した。
○道徳の学習とも関連させ、自尊感情を高めたり友達の良いところを見つけたりする土台作りを進めた。また、その際の手紙を本時の3ヒントクイズに活用した。

成果と今後の課題

これまでの授業づくりにおいて 「既習事項を活用する場面をどのように確保するのか」「言語材料と児童をどのように出会わせるのか」「英語で話す内容をまとめていく際に、どのようなスモールステップを作っていくのか」は大きな課題であった。しかし、本時の児童のふり返りに「普段よく使う日本語を英語に直せたので良かった。これからいっぱい使っていきたい。」とあるように、この3点に一定の方向性を見出すことができたと感じている。今後は別の単元や外国語活動においてもこのメソッドを生かしていくことで、より汎用性の高い「既習事項の活用」「自然なインプット」「スモールステップでの学習」が可能となる実践を積み重ねていきたいと思う。

新教材を活用した指導事例（６年生　Unit 4「I like my town.」の指導）
「外国語教育強化地域拠点事業」～山梨県韮崎市立韮崎北東小学校　第6学年～

単元名

I like my town.『夢の韮崎市を思い描こう！』

本時の目標

自分たちが住む地域にあって欲しい施設と，その理由を伝え合う。

主な学習活動

①Let's Listen
『Who am I?クイズ』
英文を聞き，どの先生のことを言っているのか想像し，名前を4線に記述する。
※まずは聞くことを重視。書く活動も取り入れた。

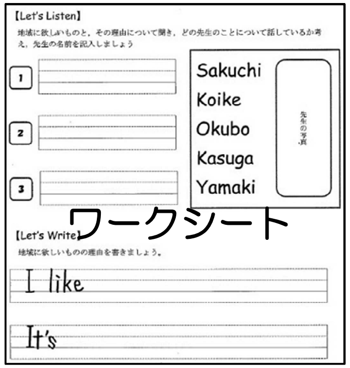
②Let's Play
『なりきりゲーム』
ペアになり，様々な人物になりきって欲しいものやその理由を伝える。
※思考を促し，考えながら英文に慣れ親しませた。

③Let's Talk
町にあるとよい施設を選び，その理由を伝え合う。
※実際に自分の考えを述べ合う。対話として，「big voice」「gesture」「eye contact」「reaction」を意識させ，伝え合い活動を行う。

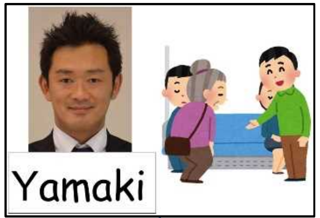
④Let's Watch and Think
様々な人の願いや，韮崎市の変容の様子を映像と音声で伝える。（HRTとJTEで交互に話す。）
※韮崎市の人がどんな思いをもっているのかを感じさせ，単元最後のスピーチに生かせるようにした。

欲しい施設を選んだ理由
（I like ～ing. It's～.）

欲しい施設
※欲しい施設やその理由については，児童に事前にアンケートを取り，対応したカードを作成。



ワークシート



なりきりカード

※先生の写真を提示し，隣には理由を連想させる絵を挿入。その絵から，どんな施設が欲しいか，理由は何かを考えて伝える。

新教材を活用した指導事例（ Unit 4「I like my town.」の指導）
「外国語教育強化地域拠点事業」～鳥取県若桜町立若桜学園小学校　第6学年～

単元の目標

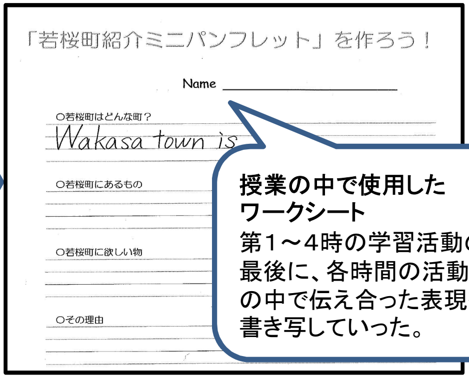
・自分の住む地域にどのような施設があるのか、また欲しいのか、地域の良さなどを聞いたり言ったりすることができる。また、地域の良さや特徴について、語と語の区切りに注意して書き写すことができる。
・地域のよさや課題などについて自分の考えや気持ちを伝え合う。
・自分の思いがはっきり伝わるように、相手の反応を見ながら、自分の住んでいる町について話したり、相手が紹介している内容を聞いたりしようとする。

指導の実際

使用教材：自作カード→施設・形容詞
指導体制：HRT（T1), JTE, ALT

第１～４時

「自分たちの住む町について、良さや願いを紹介し合うことができる。」
・町にある施設とそこでできることを紹介し合う。
・町にあるとよいと思う施設を、理由を加えて紹介し合う。
・各時間の最後に、伝え合った表現を書き写す。



授業の中で使用したワークシート
第１～４時の学習活動の最後に、各時間の活動の中で伝え合った表現を書き写していった。

第５～６時

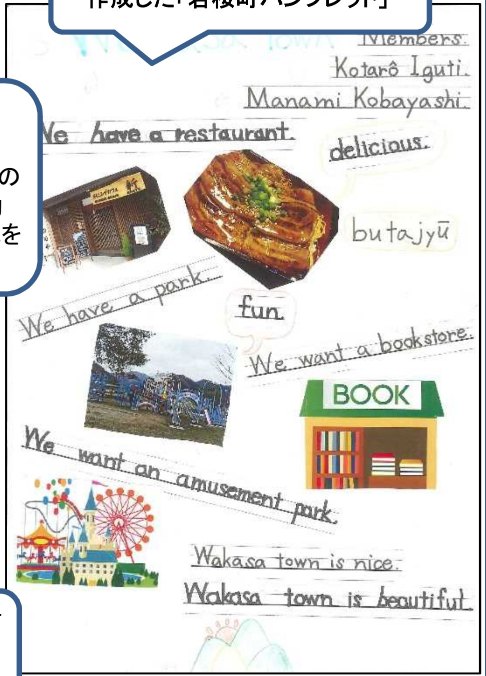
「伝え合ったことをもとに若桜町パンフレットを作り、紹介することができる。」
・第1時から4時までに紹介し合ったことを使って、若桜町パンフレットを作る。
・パンフレットを使って町の紹介をする練習をする。
・パンフレットの内容に関して、対話を展開する練習する。

第７時

「相手の反応を見ながら、自分の住む町について紹介したり、質問をして対話を展開したりする。」
・自分たちが作ったパンフレットを5年生に紹介しながら、内容に関するやり取りをする。

作成したパンフレットを基に5年生に自分たちの町について紹介した後、パンフレットの内容に関するやり取りをする。（例：What food do you like?）

作成した「若桜町パンフレット」



第８時

「友だちの発表を聞いて、感想を伝え合おうとする。」
・パンフレットを使って、友だちと互いに町紹介をして、感想を伝え合う。

指導上の工夫・教材活用の工夫

・授業で作成したパンフレットを使って5年生に紹介し、5年生が来年の修学旅行で実際に海外からの旅行者に先輩のパンフレットを紹介して渡すプロジェクトを立て、目的意識・相手意識・リアリティを持った言語活動を単元に設定した。
・町紹介のパンフレットの作成にあたっては、音声で十分慣れ親しんだ語彙や表現を書く（書き写す）ことにより細かなステップを踏んで読むこと、書くことに慣れ親しませるようにした。

成　果

・目的意識、相手意識が明確であり、大変意欲的に学習活動に取り組む姿が見られた。
・「話す・聞く・書く」と、くり返し学習した表現にふれる機会を持つことで、一人一人が自信を持って活動に向かうことができた。
・紹介した後に、やり取りする内容を考えることで、今までの学びを生かすことができた。

今後の課題

・使用表現が増えていくため、各時間の活動の中で前時までの既習表現を含めて、くり返し使う機会を設定していく工夫が必要である。
・個々の児童によって伝えたいことが異なるため、使用語句も多岐に渡ってくる。その語句をどこまで広げていくのか、検討・精選が必要である。

新教材を活用した指導事例（ Unit 7「My Best, Memory 小学校生活・思い出」の指導）
「外国語教育強化地域拠点事業」～鹿児島県伊佐市立大口小学校　第6学年～

単元の目標　英語版卒業文集「My Best Memory」を作ろう。

指導の実際

第1～2時
目標：小学校でのいろいろな学校行事を英語で表現しよう。
・ 前単元で学習した過去形「went to～」「ate～」「saw～」「enjoyed ～」について復習する。
・ 学校行事に関する語句を聞き、チャンツやゲーム等をする。

第3～4時
目標：修学旅行で行った場所、食べたものを紹介しよう。
・ 好きな学校行事や行った場所についてSmall Talkをする。
・「went to ～」「ate ～」を使ったチャンツやゲームをして慣れる。
・「went to ～」「ate ～」を使い、自分の思い出を伝え合う。
・「went to ～」「ate ～」を使って伝えた内容の英文を書き写す。

第5～6時（本時　6時）
目標：修学旅行で見たもの、楽しんだことを紹介しよう。
・ 週末に行った場所や見たものについてSmall Talkをする。
・「saw ～」「enjoyed ～」を使ったチャンツやゲームをして慣れる。
・「saw ～」「enjoyed ～」を使い、自分の思い出を伝え合う。
・「saw ～」「enjoyed ～」を使って伝えた内容の英文を書き写す。

第7～8時
目標：発表会を行い、英語版卒業文集を完成させよう。
・ これまで書き写してきたワークシート上の英文を確認しながら整理したり挿絵を描くなどして、英語版卒業文集の原稿を作る。
・ 作り上げた英文や絵を友達に見せながら、思い出を発表する

［単元のねらい］
単元の目標である「英語版卒業文集『My Best Memory』を作ろう」に向けて8時間の単元計画で行った。過去を表す表現は、前単元「My Summer vacation」でも取り扱っており、これらの既習の表現を活用して、文集を作る活動ができるようにした。また、思い出を友達同士で伝え合ったり、文を書いたりする活動を協力し合いながら進めさせることにより、よりよい人間関係づくりと学習集団としての高まりにもつなげられるようにした。

［実際の授業の様子（公開）：主な活動］

Small Talk

週末に行った地元の「曽木の滝」のお祭りで見たものや楽しんだことを伝え合うなど、地域の郷土教材で学んだ既習事項も使いながら、生き生きと対話する姿が見られた。

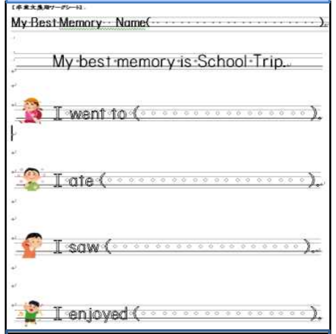
サイン集めゲーム

修学旅行で楽しんだことについて、相手に分かりやすく伝えることや、Me, too. など対話を続けるための表現を大切にして活動させたことで、児童は時間いっぱい取り組んでいた。

書き写す活動

対話で十分に伝え合った「自分が楽しんだ修学旅行の思い出」を、モデル文を見ながらワークシートに書き写させた。児童は4線や英文の書く際のルールに気を付けて丁寧に書いていた。

ワークシート


My Best Memory　Name(　　　　)
My best memory is School Trip.
I went to (　　　　).
I ate (　　　　).
I saw (　　　　).
I enjoyed (　　　　).

一単位時間の終末には、一つの英文だけを書くようにし、児童は自分の思い出をスモールステップで書き足しながら文集原稿を完成させていった。

指導上の工夫・教材活用の工夫
・ 具体的な場面や題材を設定し、コミュニケーションを行う目的を明確にした単元の学習目標や毎時の学習目標となるようにした。
・ 既習表現を想起し使ってみる活動としてSmall Talkを毎時間取り入れ、実生活を話題にした友達との会話をさせることで、自分の思いを伝え合う喜びを味わうことができる経験を積み重ねられるようにした。
・ できあがった文集を中学校に送るなどして，本単元で学習した内容が中学校での活動や学習へうまくつながっていくように努めている。

成　果
・ 日常的に英語に慣れ親しむ児童が多く見られるようになった。
・ 他者を意識しながら英語で伝え合う楽しさを味わい、自分の思いを伝えようとする児童が増えた。
・「聞く」「話す」活動で十分に慣れ親しませた後に文字や英文をなぞったり書き写したりさせたことにより、児童の文字への抵抗感が少なくなった。

今後の課題
・ 児童が既習事項を駆使して自分や友達のことを更に伝え合うことができるように、既習事項を繰り返し扱い、コミュニケーションを楽しませながら英語運用能力を高めていく必要がある。
・ 児童の実態を踏まえた指導目標や指導内容、評価の在り方について、更に小・中・高の系統性に留意しながら研究・検証していく必要がある。

「とびら絵」ページを活用した単元の導入（６年生　Unit 8「What do you want to be?」の指導）
～福井県教育委員会～

指導にあたって

○とびら絵を使った児童とのやり取りをとおして、児童の学習への動機付けを行う。
○とびら絵を使い、「聞く」「話す」活動を十分に行う中で文字や言語に対する気づきを大切にし、「読む」「書く」につながる言語活動を行う。

とびら絵の効果

・見開きページで構成されており、絵が色鮮やかで大きく、ダイナミック。児童の興味関心を喚起させ、その場面を強く印象付けることができる。
・絵の助けを借りてやりとりすることができるため、説明や前置きなしに語彙や表現を繰り返し聞かせたり、話題を広げたりできる。
・イラストに英語の文字がそえられており、自然に文字を読んだり書いたりする活動につなげやすい。
・背景や細部にまで子供の視点に立った配慮がなされており、子供の気付きを拾って展開しやすい。

授業の実際

第１時の指導展開例　　本時の目標：職業について興味を持ち、職業について聞いたり言ったりする。

学習の流れ

①児童にとびら絵を見せ、児童とのやりとりの中で学習の見通しを持たせる。
発問：一体何の絵かな？気づいたことを発表しよう。

発問：先生は、I want to be a teacher. みんなは？

◆ポイント･･･教師から「仕事の言い方を勉強しましょう」「獣医はvetと言います」という前置きや説明ではなく、「サッカー選手がいる」「いろいろな仕事の名前が載っている」のような子供の発言から「自分は〇〇になりたい」という本時のめあてを引き出す。

◆ポイント･･･教師が、単元のタイトル＝目標言語材料や職業にそえられた単語（文字）に縛られすぎたり、注目しすぎたりすると、授業が言語活動より指導（練習）を重視したものになりがちである。まずは、子供たちに共感し、他の意見を引き出しながら、子供たちを「とびら絵」の世界に入り込ませることが重要。
・やり取りの中で、「teacherだから前にいるのは生徒。生徒って何て言うの？」「erがたくさんある。どんなのがある？バスの運転手。あっ、ドライバーって言うよ。」等々、子供の気付きから、語彙や表現の言い方や意味を理解させていく。
・「とびら絵」の中から、自分のなりたい職業を選ばせ、学んだ語彙や表現を実際に使う場面を設定することで、どの子供もなりたい職業について具体的に考えることができる。

②実際になってみたい職業を「とびら絵」の中からえらび、ALTの先生➡ペア➡クラスの友達という流れで伝え合う。

③職業の言い方を練習する。

◆ポイント･･･１度やってみて、そこでの児童の「正確に伝えたい」という思いを受け止めて、職業の言い方を練習するなど、練習する意義を子供たちに意識させた上でチャンツやゲームを取り入れる。

④自分のなりたい職業をテキストを見ながらワークシートに書き写す。

◆ポイント･･･友達同士聞き合った後、自分たちがなりたい職業を4線上に書くことで、自分自身が興味ある単語を自然に書くことにつなげる。

成果と課題

成果：①とびら絵の意図を重視した指導は、教師主体の授業から児童主体の授業への転換を図る際の手がかりの１つとなる。
　　　②児童とのやり取りを中心とすることで、教師の指導力と英語力の向上につながる。
課題：①目標言語材料への慣れ親しみにつながる活動設定をする際に、「教師の願い」と「児童の興味関心」を効果的に擦り合わせることが難しい。

新教材を活用した指導事例（６年生　Unit9「Junior High School Life」の指導）
「外国語教育強化地域拠点事業」～広島県東広島市立東西条小学校　第6学年～

単元の目標

〇入りたい部活動や楽しみにしている学校行事等に関する表現を理解し，聞いたり言ったりできる。（知識・技能）
〇自分が入りたい部活動や楽しみにしている学校行事等を伝える。（思考力・判断力・表現力）
〇他者に配慮しながら，中学校生活で入りたい部活動や楽しみにしている学校行事などを伝えようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

指導の実際

第1次（1単位時間＋短時間学習15分）

単元のゴールを知り，部活動の名前を聞いたり，言ったりする。

中学生からのビデオレターを視聴し，単元のゴールを知る。

第2～4次（3単位時間＋短時間学習15分×4）

入りたい部活動，楽しみにしている学校行事，期待を伝える表現を理解し，それを用いて言う。

「話すこと」の発表とやり取りを関連付けながら，「知識・技能」の定着を図る。

第5次（1単位時間＋短時間学習15分）

他者に配慮しながら自分が入りたい部活動や楽しみにしている学校行事等を伝える。

第6次（1単位時間）

中学校生活で楽しみにしていることについて，他者に配慮した言い方でよりよく伝えようとする。

ビデオレターを作成し，中学校に送る。

指導上の工夫・教材活用の工夫

・単元を通してゴールの姿を児童と共有し，相手意識を持たせながら指導を行うよう留意した。
・単元末のゴールとして，中学生に送るビデオレターを作成し，評価にも役立てた。

成　果

・小中連携の一環として取り組むことで，児童生徒の接続，指導者の連携に繋がった。
・必然性を持たせる工夫をすることによって，意欲的に進んで英語を話す児童の姿が見られた。

今後の課題

・児童が自分自身の話す姿を見て，改善を加える活動をする等，表現力を高めさせる。
・客観的で妥当性の高い評価基準を作成していく。